

南 関 町



佐藤 安彦 町長

熊本県、南関町にご縁のある企業の皆様、またはこれからご縁を結ばせて頂く皆様へ本町では「新しい未来の幕開けとともに新たなチャレンジが出来る町」を将来像とし、各種事業に取り組んでいます。

持続可能な社会・地域づくりの一環として子育て・高齢者支援等様々な施策を盛り込んだ「住んでよかったプロジェクト」や、美しい里山を残すため竹山林の整備推進を行っています。

少子高齢化、地球温暖化防止など社会的意義のある本町事業に企業版ふるさと納税制度を活用してご助力いただければ幸いです。

寄付御礼

- ・贈呈式開催
- ・感謝状贈呈
- ・地公体広報誌掲載
- ・HP掲載
- ・視察受入
- ・功労者表彰推薦
- ・紺綬褒章推薦
- ・その他



人口

総人口……8,900人
男……4,236人
女……4,664人
世帯数……3,488世帯

面積

総面積……68.92km²
農用地……14.55km² (21.1%)
森 林……33.80km² (49.0%)
宅 地……4.41km² (6.4%)

産業構造

第1次産業……1,193 (2.2%)
第2次産業……39,720 (71.6%)
第3次産業……14,566 (26.3%)
生産総額: 百万円

人口構成比

15歳未満……11.8%
15～64歳……49.8%
65歳以上……39.4%

教育機関

小学校……4校
中学校……1校
高等学校・高専……—
大学・専門学校他……—

工業団地

南関東部工業団地

交通アクセス

■南関町役場まで
九州自動車道 南関ICから……約2.1km (約5分)
菊水ICから……約15.0km (約16分)
JR 玉名駅から……約19.0km (約33分)
JR 大牟田駅から……約14.0km (約27分)
九州新幹線 新大牟田駅から……約7.3km (約12分)

※データは令和3年6月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。

南関町まち・ひと・しごと創生推進計画

〈SDGs〉関連するゴール

新たなチャレンジが出来る町

基本
目標
1

地域資源を活かす産業と、魅力ある雇用を創出する

町の農産物や山林資源を活かした物産振興、地域に活力をもたらす企業誘致など、町に定住する人を確保する仕事づくりや魅力ある雇用の創出に取り組みます

基本
目標
2

人の流れを創り、各種人材育成に取り組む

福岡都市圏、熊本市との良好なアクセス環境を有しているという強みを活かし、人の流れを創ると共に社会教育・生涯学習の充実により各種人材に取り組みます

基本
目標
3

結婚・出産・子育ての希望を実現する

住みたくなる、住み続けたいまちづくりを目指した「住んでよかったプロジェクト」により、町で子育てをしたいと思えるような環境の充実に取り組みます

基本
目標
4

誇りを持ち元気に暮らし続けられる地域を創る

誰もが暮らしやすい持続可能なまちづくりに取り組みとして、元気づくりシステム南関モデルを推進し、生涯現役で活躍する健康長寿の地域づくりを行います

重点
プロジェクト

移住定住支援

分類 移住定住促進

総事業費 732,500千円 寄附目標額 —

計画期間 地域再生計画の認定の日…2020年4月1日～2026年3月31日

数値目標 ●社会移動／人……………±0人
●合計特殊出生率／人……………1.8人

〈SDGs〉関連するゴール



住んでよかったプロジェクト

あらゆる世代の方を対象に、本町に住んでみたい、住んでよかったと思っただけのよう定住促進を柱とした様々な施策に取り組んでいます。全国に先駆け平成23年に子育て・定住対策としてスタートした「住んでよかったプロジェクト」により、減少の一途だった町児童生徒数が増加に転じました。

第3期プロジェクト(R3)では住民の再エネ設備補助なども加え持続可能な社会づくりを目指しています。

プロジェクト事業は以下の18事業となります。

- 定住住宅取得等補助金 ●関所つ子応援金 ●空き家バンク事業 ●タクシー料金助成事業
- 乗合タクシー事業 ●就職激励金事業 ●空き店舗等活用開業支援事業 ●子ども用品リユース
- 家庭内保育世帯応援金事業 ●保育料助成金事業 ●放課後児童健全育成事業
- 子どもインフルエンザ予防接種助成 ●子ども医療費助成 ●小中学校給食費補助事業
- 町外小中学校当給食費補助 ●家庭用再生可能エネルギー導入促進事業
- ファミリーサポートセンター事業 ●くらしいきいきサポート事業



町観光名所【御茶屋跡】

重点
プロジェクト

地域資源を活かした低炭素のまちづくり

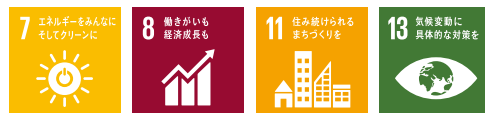
分類 まちづくり

総事業費 10,000千円 寄附目標額 —

計画期間 地域再生計画の認定の日…2022年4月1日～2023年3月31日

数値目標 ●竹林の整備面積……………10,000㎡
●竹材の買取量……………300t

〈SDGs〉関連するゴール



南関版低炭素のまちづくり

少子高齢化による後継者不足は、農林業にも大きく影響を及ぼし持続可能な地域づくりを阻害要因となっています。荒廃竹林による生態系の破壊や土砂災害被害の拡大など「竹害」は大きな問題です。但し、資源として有効活用出来れば地域の可能性は大きく広がります。

本町では里山の自発的な整備に繋げようと、竹山から竹を出荷し企業に買取される際の金額の上乗せ事業や、竹林整備補助、林道の維持管理などの事業を行っています。

伐採された竹は、町内のバイオマスエネルギー事業所での燃料として利用されるほか、筍や竹のお箸など町の名産品として持続可能な地域資源として活用されています。

また、町では、庁舎の建て替え事業(令和4年1月開庁)において、旧県立南関高校校舎を庁舎へ改修するとともに、熊本県産の杉桧を活用した木造増築棟を建設し、二酸化炭素排出量を鉄骨造の躯体と比べて391.8t削減するなど低炭素のまちづくりに取り組んでいます。その他、町内の使用済み天ぷら油を回収して公用車の燃料とするなどといった取り組みも継続して行っています。

竹山や山林を継続して整備し、地域資源として活用することで脱炭素社会への一助となることは間違いありませんが、事業を安定的に継続するためには財源確保が必要不可欠です。



人・まち・自然を繋ぐ「竹あかり」

課題 1 若い世代の流出抑制



毎年8月に行われる南関夏まつりぎおんさん

進学、就職を機に一度南関町を離れた方たちへのUターン促進や、町内企業に通勤する町外居住者の移住促進が課題となっています。車を所有していれば、周りの市町からの通勤距離が短く、本町への来町が苦にならないことが町外通勤者を産みやすい素地になっています。

また、町内に高校、専門学校、大学などが無く、若い世代の転出に繋がりがやすくなっています。また、町内に企業数はあるものの、工業系など第2次産業の業種が多く、多様な職種選択がしづらいといった面もあります。

課題 2 アピールしきれていない町の自然環境

町ではほとんどの家庭が、おいしく豊富な地下水を利用しています。また、町の半分がほぼ山林原野と緑豊かな自然環境の中にあります。しかしながら、その恵まれた環境を保全・管理・観光活用などがまだ十分には出来ていません。近年の豪雨災害の折には、山林の土砂崩れによる災害の拡大も懸念されますが、日常生活での山への無関心がそういった状況を産む原因にもなっています。企業様の力が必要です。ご協力をお願いします。



町の「まるごと田舎体験事業(田植え)」

課題 3 誘致企業の促進や起業支援



小代焼窯跡群「瀬上窯跡」

町には工業団地が1箇所ありますが、全ての区画が埋まっており、すぐに企業誘致出来る場所が限られています。別の工業団地の形成を進める必要がありますが、多大な資金と労力が必要なため、民間活力を利用し形成する必要があります。また、起業支援を促すため、今後チャレンジショップの整備やテレワークオフィス・サテライトオフィスなどを誘致出来る施設整備を行っていく必要があります。ぜひご支援ください。

課題 4 農業後継者の育成と耕作放棄地の活用

町の農業に関しては他産業と比べて高齢化、後継者不足が深刻な状況にあります。加えて、耕作放棄地の増加も懸念事項です。農地を集約し、農業法人化を進めていますが、まだまだ担い手が不足しています。デジタルを活用したスマート農業の促進や後継者育成がこれからの課題となっています。



町の特産品「小代焼」

課題5 有害鳥獣への対策



ものづくり特産品「竹箸」

町では、猪やタヌキ、アライグマ、アナグマなどの有害鳥獣を町の猟友会に補助金を出して駆除するなど農作物への被害を軽減するよう対策しています。また、農業者へ電気柵設置補助による対策も行っていますが、年々鳥獣害による被害は増えていきます。ジビエとしての活用も加工場所・人員なども居らず、現在出来ておりません。企業様からのご支援をお願いします。

課題6 空き地・空き家の増加

少子高齢化と人口減少により、町内の空き家は増え続けています。相続・お墓・仏壇・家財の処分などの問題を解決することが必要です。本町には不動産業者が2社ありますが、現状、空き家を再び有効活用する手間暇については本人が解決する問題となっており、資産価値が減少していく家が殆どとなっています。リフォームやスムーズな相続・賃貸等により不動産の資産価値を向上し、空き家・空き店舗を産まない仕組みづくりが必要です。



「南関あげ巻き寿司」

課題7 公共交通の利便性向上



南関そうめんの乾燥風景

本町では予約型の乗合タクシーを運行し、事前登録・予約すれば誰でも自宅から町内の目的地まで片道300円で行くことが可能です。一方、町外の病院へのタクシーや運行頻度の低いバスを利用することになり、利便性が低い状況です。また、町外からの観光客の場合にはその殆どが車での来町に限られ、町内の観光施設である「南関御茶屋跡」には直接大型バスを乗り入れることが出来ないため、大型バスの場合は1キロほど手前の駐車場に駐車することになっています。公共交通の利便性向上に向けたご支援、アイデアをお願いします。

課題8 地域コミュニティの活力低下

新型コロナウイルス感染症により、町の各団体それぞれの活動が制限され、また自粛期間の長期化により活動再開に向けた努力が一段と必要になっています。コロナ禍でも安全安心に活動できる体制づくりと環境整備がどの団体でも必要になっています。ご支援、ご協力をお願いします。



大津山公園の冠木門